

	項目	
1	<p>室内温度、外気温度の条件が適切である</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「室温>表面温度>外気温度」となっている <input type="checkbox"/> 室温が15℃以上のもので、撮影時の外気温は5℃以下を推奨（室温が高い環境で外気温度との差が10度以上ある環境であること、それ以下の場合は窓の性能計算の精度が落ちる） 	
2	<p>窓に直射日光が当たらない</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 日光が当たらなくなってから1時間以上経過していること（撮影時の窓の表面温度に影響が出ないようにするため） 	
3	<p>撮影の1時間以上前に暖房を開始（室内温度15℃以上推奨のため）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 同時にシャッター、雨戸、カーテン、ロールスクリーン、ブラインド等付属部材を開放しておく <input type="checkbox"/> サーキュレーターを使用している場合は、直接窓に風があたらないようにする <input type="checkbox"/> 床暖房など放射型の暖房器具を使用している場合や、暖房器具の温風が撮影対象の窓に直接あたる場合は推定誤差が大きくなる <p>※ 暖房の開始とシャッター、雨戸、カーテン等の開放は事前にお客様に依頼をしておくことよい</p>	
4	<p>撮影前に、温湿度計等で室温（必須）と、屋外温度（推奨）を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 外気温：アメダスデータより自動取得される設定になっているが、より正確なシミュレーションのためには都度測定した値を使用することを推奨（→撮影時、画像名称と室温を入力の際、外気温も実際の温度に入力しなす） <input type="checkbox"/> 温湿度計は設置後15分程度待つ 	
5	<p>端末のGPS機能をONにしておく</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 近隣の気象観測所から屋外風速、風向きをするため取得するため 	
6	<p>対象の窓の横幅長さに応じた最低撮影距離を設ける</p> <p>Ex: 窓幅が1.0mの場合⇒ FLIR One PROは、約1.3m・FLIR Oneは、約1.5m 窓幅が1.5mの場合⇒ FLIR One PROは、約1.9m・FLIR Oneは、約2.2m</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「ご利用マニュアル」P14参照のこと 	
7	<p>極力、自身が映りこまない位置から撮影</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 理由：人体や熱源（暖房機等）が、ガラスに映りこむと反射物による赤外線の影響を受けてしまい、映りこんだ箇所ガラス表面温度に測定誤差が生じてしまうため <input type="checkbox"/> 正面からの撮影が望ましいが、映り込みを排除する場合、若干斜めから撮影するなど工夫をする 	
8	<p>撮影対象表示後、端末右下の[tuning]ボタンを2、3回タップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 理由：撮影対象物との距離を認識し、画像調整することで、表面温度の測定誤差を少なくするため <input type="checkbox"/> 慌てずゆっくり2、3回タップし、タップ後は、2、3秒待って、画面に表示される温度が安定するのを確認してから撮影する 	

※ 詳細は、「ご利用マニュアル」を必ずご確認ください。

※ サーモグラフィカメラの特性として起動直後は温度値が安定しないものであるため、温度値が不安定な場合は起動後、3分程度は通電したままの状態にしておくのが望ましいです。

※ 「マドサーモ」は、「窓をリフォームしたらこれぐらいの変化がある」というイメージをお伝えする簡易シミュレーションです。お客様には絶対的な数値を保証するといった誤解を与えないようにご注意ください。